

笈川 洋昭 OIKAWA HIROAKI
梅花短期大学講師

一級建築士事務所DAD's計画工房主宰

遊び心と実利を創出する環境共生・エコロジー設計

住まいのデザインにおいても「環境共生」「エコロジー」は、いま、重要なキーワードです。

多くの設計者や技術者たちは「光・風・水・土・草樹木」など、自然の力や生態を利用する」という新しいデザインのキーワードを得て、創造意欲をかきたてています。

ソーラーパネルをデザインモチーフとしたファサード(屋根や壁面などへの取り込み)、さらには二重格子をファサードに付けて庇の効果を狙った建物など、いくつもの例を見ることができます。

1970年代、住宅地開発・都市再開発など都市計画の分野では「自然との調和・環境との共生」はすでに大きなテーマとなっていました。80年代に入り、それまで特定地域だけの問題だった環境汚染・公害などは、資源の枯渇、生態系の破壊、オゾン層の破壊・温暖化による異常気象など地球全体の問題としてとりあげられるようになりました。

21世紀のいま、京都議定書で論議されているように、CO₂問題などは取り組まなければならない最重要課題となっています。

国としても地球環境を守る観点から、住み手が関わりながらつくる「環境共生住宅」の普及をはかり、補助制度を設けていくつかのモデル事業も進めています。ここでは、省資源・省エネルギー、自然エネルギーの活用により地球環境の保全について、適切な配慮がなされていること(Low Impact)

自然環境、地域社会等の周辺環境との調和について、適切な配慮がなされていること(High Contact)

住居内の居住環境、健康性、快適性等の実現について適切な配慮がなされていること(Health & Amenity).....以上の3つの要件を満たすことを掲げています。

具体的なイメージとして、太陽光発電装置、吹き抜きからの採光、住宅内外の通風、屋上緑化、雨水排水の再利用、土の庭、菜園、植栽、植樹(落葉樹)など、ごく身近な道具立てで省エネルギーや環境との共生を図り、地球環境に貢献しようということです。



屋上緑化でエコロジーを実践する「未知草」

環境共生住宅

省資源 省エネ
自然の活用

自然や社会など
周辺環境との調和

居住環境 健康
快適性などの配慮

おそらく「環境に優しい住まいを設計してください」と注文をつける人は、かなり限られると思います。環境の大切さは誰も分かってはいるながら、現実にはコストや利便性を優先させるのがふつうです。

ところが、「エコロジー」が、住まいを設計しつくる側にとっても、また住まう側にとっても有効なキーワードであるのは、それが双方ともに「得」になるテーマだからです。

私たち設計に携わる者にとっては、環境という新しい切り口を得ることでデザインのヴォキャブラリーが増え、さらに新たな発見へつながっていくという楽しさがあります。

たとえば、屋上緑化は多くの設計者たちのモチーフとして創意を刺激しています。それは、景観はもちろん、断熱効果や植物の蒸散作用による冷却効果がヒートアイランド化を抑



南面の植栽は、太陽光を吸収し、反射光だけでなく輻射熱も抑えるので、大きな省エネ効果があります。

えるなど、自然・環境・社会に貢献することもあります。なによりも天高く拓けた場所で、楽しく、親しみやすい空間を創ることに遊び心のイメージが膨らみます。

屋上をピオトープにしたり、畑にしたり、散歩道にまでした建物もあります。エコロジー=風土によって培われた住まいの知恵を再発見し、これをデザインに取り入れようと萱葺き屋根の上にニラを植えた、遊び心にあふれた家もあります。

また「冷暖房費が安くなる...狭い場所でも緑豊かな庭がもてる...天窓のあるダイナミックな居間空間を実現できる」、そして「ほんの少し世間に気を遣うと快適な街並みになる」など、住まう側にもメリットをもたらします。だから環境、省資源・省エネルギーは商品価値を持つのです。

屋根から地上に目を向けると、エクステリアの設計についても、植栽の種類や配置をはじめ、機能や価格が優先されがちなサンデッキ、バルコニー、パーゴラ、塀・さらには門扉・駐車場にまで、エコロジーという新たな視点を加えることで、実利を得ながら徐々に遊び心を膨らませる可能性があるように思えます。

徒然草に「住まいは夏を旨とすべし」という一節があります。湿気の多い日本の風土を考えれば、住まいは、風通しよく、夏に快適に過ごせるようにつくる方が、暮らしやすいという先人の知恵が表された言葉です。住まいづくりとは、人が心地よく暮らすための「知恵」が凝縮されたひとつの「文化」です。

「環境共生」と「エコロジー」というキーワードも、「地球環境を守ることによって自らの生命を守る」ことはもちろん、「快適な住環境や都市環境を得る」ことや「経済性を高める」といった現代の人々の「知恵」「願い」が結実した価値観であり文化なのです。